



コロナと摂食嚥下障害看護

摂食嚥下障害看護 川野 陽子

現在、熊本県下でも COVID-19 感染者数は増加しています。「嚥下障害患者に対して、口腔ケアや摂食嚥下訓練、食事介助、吸引など様々なケアを行っている。感染拡大に伴い、無症状であっても COVID-19 ウイルスを保持している可能性は否定できない現状を鑑みて、医療従事者と患者間で相互に感染を波及させないために嚥下障害患者へのケアの際には適切な感染対策が必要となる」嚥下学会でも注意喚起がなされています。

★基本事項：発声や嚔出を伴う手技はエアロゾル発生リスクがある。患者の対面には位置しない。90度横、並列、あるいは後方に位置する。



食事介助

患者がむせたり、咽頭に貯留した唾液などを嚔出するため咳をすることが想定され、**エアロゾルが発生する手技**であることを留意する。

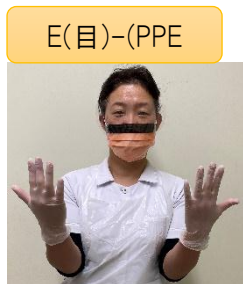
・環境：流行発生地域や蔓延地域での未確認者への食事介助は窓を開放して換気に注意を払う。

- ・介助：飛沫とエアロゾルを最小限にする必要がある。**側方から介助**し食事時の会話も最低限とする。
- ・食形態：通常に比し慎重な食形態の選択を求められる
- ・時間：患者の疲労度に合わせ、長くても30分を限度とする
- ・説明：すべての患者に対して COVID-19 保持者である可能性を考え、3密の回避、唾液や咳による痰の飛沫を考慮した対応が必要であることを患者や家族に丁寧に説明する
- ・口腔内・気管内吸引：咳や嘔吐反射による飛沫を予測して**正面から処置を行わない。口腔内や気管切開孔を覗き込まない。**



口腔ケア

口腔ケアはエアロゾル発生手技に分類。ケア後の施行者への飛散状況は歯ブラシ、スポンジ、吸引使用時にフェイスシールド、エプロン、手袋と肘の間への飛散が確認されている。



E(目)-(PPE)

	確定・疑い	未確認
非流行地域	Full PPE	E-PPE
流行地域	Full PPE	EB-PPE

EB(目・体)-PPE



摂食嚥下障害のケアの手は止めない、安全も守ろう。
摂食嚥下障害についてご相談ください。感染予防に留意して対応していきます。患者様とケアにあたるスタッフの皆様を守る為にも、感染予防を再確認していきましょう。

化学療法誘発性末梢神経障害 (CIPN) のケアについて

がん薬物療法には、患者さんが自覚する症状と血液検査などしないとわからない副作用があります。CIPNは、最初は、気にならないこともあります。しかし、悪化すると医療者が想像するより患者さんの日常に支障をきたすことがあるので注意が必要です。

代表的な薬剤は、パクリタキセル・ドセタキセル・アブラキサン・オンコピン・ナベルピン・オキサリプラチン・ベルケイド・レプラミド・カドサイラなどがあります。CIPNは、薬剤の種類やレジメン、また回数を重ねるごとに症状が悪化する場合があります。

症状は、「手がジンジンしている」「物が掴みにくい」「包丁が握れない」「ボタンがはめにくい」があります。指先や足先を触りながら「ジンジンしていませんか?」「新聞はめくれますか?」と具体的に問いかけ患者さんの訴えを聞き逃さないことが大切です。



CIPNは、日常の生活の支援が必要です。



熱いと感じる感覚が鈍くなるので火傷に注意する。包丁を握ることが困難な場合はピーラーなどを活用する。その際は、怪我防止のため手袋を用いる。



スリッパは脱げても気づかないことがあるので運動靴の使用をする。寒冷刺激がある場合は、保温に努め、治療後は手袋やマフラーなど防寒着を持参してもらうなど。患者さんと共に日常生活について考え、ケアを行っていきましょう。

がん化学療法看護に関する様々相談を承っております。がん化学療法の気になること、勉強会などあればどうぞ気軽に声をかけてください♪

がん化学療法看護認定看護師 廣川玲奈

